

恐竜 Dinosaurs



恐竜博物館
ニュース

第47号

2016.3.17

福井県立恐竜博物館

特集：恐竜博物館この一年のあゆみ ～2015年度恐竜博物館の動き

- 目次 ▼博物館トピックス「恐竜博物館この一年のあゆみ ～2015年度恐竜博物館の動き」… 2～4
▼タイでの恐竜シンポジウム／（新種恐竜シリントーナ）… 5
▼研究員のページ「雲南省禄豊県から続々と見つかる竜脚形類の頭骨化石」… 6
▼2016年度特別展紹介… 7 ▼2016年4月～7月催し物案内… 8



ブラキオサウルス・アルティトラクス

Brachiosaurus altithorax



竜盤目
竜脚形亜目
竜脚下目
アメリカ コロラド州



2016年2月23日、福井産の小型獣脚類が新種として認定され、フクイヘナートル・パラドクサスと学名が付けられました。次号に特集記事として、詳しくお知らせいたします。

恐竜博物館この1年のあゆみ

2015年度 恐竜博物館の動き

開館15周年

2000年7月にオープンした恐竜博物館は2015年で開館15周年を迎えました。特別展の開催期間中に、「開館15周年のあゆみ」の展示を行うなど、各種の記念の催しを開催しました。



特別展「開館15周年のあゆみ」

開館時間の拡大

来館者の利便性・サービス向上のため、特に多くの来館があるゴールデンウィークや夏休み期間、シルバーウィークの期間において開館時間を1時間30分拡大しました。

この取り組みは、来年度以降も継続して行っていくこととしています。

開館時間

「9時から17時まで」を「8時30分から18時まで」に拡大

期間

2015年5月2日(土)～6日(火)

2015年7月18日(土)～8月31日(月)

2015年9月19日(土)～23日(火)

計 55日間

野外恐竜博物館

開館2年目となる野外恐竜博物館の営業を、4月25日(土)に再開しました。11月3日(火・祝)の営業終了までの間に、約3万4千人の方が利用され、9月20日(日)の10時出発の便で通算5万人を突破しました。10時出発便参加者の小学生以下の皆さんには、当館オリジナルグッズセットと恐竜文具セットを、グループごとに恐竜博物館展示解説書1冊と当館オリジナルのサウンド付ポップアップカード1枚をプレゼントしました。

2016年は、4月23日(土)から営業を開始する予定となっています。

期間 2015年4月25日(土)

～11月3日(火・祝)

利用者数 33,863人



野外恐竜博物館再開第1便



通算5万人突破セレモニー

特別展の開催

開館15周年記念特別展「南アジアの恐竜時代」を開催しました。今回の特別展では、タイ、ラオス、中国南部などアジア南部の恐竜化石を中心に、全長約15.5メートルのプウィアングサウルス(タイ産)や魚を食べていたイクチオペナトール(ラオス産)など約110点の標本を展示しました。

入場者は特別展としては初めて20万人を突破(77日目)し、最終入場者数は約22万人に達しました。

期間 2015年7月10日(金)

～10月12日(月・祝)95日間

入場者数 224,470人



開館15周年記念特別展

第四次恐竜化石発掘調査

2013年からスタートした第四次恐竜化石発掘調査の3年目の調査が、7月27日(月)から始まりました。

期間 2015年7月27日(月)

～9月5日(土)

調査地 勝山市北谷町杉山





発掘調査現場

<発掘調査の成果>

- ①国内では3例目、発掘現場では初めてアンキロサウルス類の足跡化石が発見されました。
- ②手取層群で初めてとなるゴキブリ類の翅を始め、発掘現場では初めて昆虫の化石計16点が発見されました。
- ③広範囲の同一面上（約3m×7m）において、大型の獣脚類および鳥脚類を含む計24点に及ぶ複数種類の足跡化石が発見されました。



恐竜足跡化石の地層面（全景）

通算入館者数が700万人を突破

2000年7月14日の開館以来の通算入館者数が2015年9月22日(日)に700万人を突破し、翌日23日(火・祝)に記念セレモニーを開催しました。700万人に到達した延べ年月日数は15年2ヶ月と8日ですが、そのうち600万人から700万人に到達した期間は407日で、100万人の節目を達成した過去最短記録になっています。



700万人突破記念セレモニー

記録ラッシュの シルバーウィーク

1日の入館者数が、9月20日(日)に20,880人となり、これまでの過去最高だった本年5月4日(月・祝)の15,706人を5,174人(32.9%増)上回って最高記録を大幅に更新しました。

さらに翌日の21日(月・祝)は15,802人、続く22日(火・休)は14,949人と、過去2番目、4番目の入館者数を相次いで記録しました。

また期間中の入館者数が65,490人となり、本年5月のゴールデンウィーク(5月2日(土)~6日(水))の54,748人を10,742人(19.6%増)上回り、5連休としては過去最高を記録するなど、入館者数の記録ラッシュのシルバーウィークでした。

「FPDM Value Up Project」 (バリューアッププロジェクト) がいよいよ始動!!

株式会社林原(岡山県岡山市)から新たに購入した恐竜化石などの標本を「FPDM Value Up Project」(バリューアッププロジェクト)と銘打ち、今後3か年かけて順次公開していく予定です。その第一弾、「New Comer Collections ~ はじめまして!ぼくたち新参者🦖です!~」では、アロサウルスの全身骨格など20点の標本を11月14日(土)から5月8日(日)まで公開しています。

また、1月30日(土)からは、1階「恐竜の世界ゾーン」において、新たにブラキオサウルスを常設展示し、組上げ・展示作業を公開しました。



New Comer Collections

大野市と化石の共同調査等に 関する協定を締結

11月19日(日)に大野市役所において、恐竜博物館長と大野市長の間で、大野市内から発掘された化石に関して、大野市と共同で調査することなどについての協定書が調印されました。



大野市との調印式

「フクイサウルス サンタ」と 「ダイノツリー」が登場

11月27日(金)から、恐竜博物館3階ダイノテラスで「フクイサウルス サンタ」と「ダイノツリー」の展示を始めました。

これは2012年から始めたイベントで今年で4回目となります。地元勝山市内の私立鹿谷保育園の園児29人を招待して、「フクイサウルス サンタ」の除幕と「ダイノツリー」に飾られたイルミネーションの点灯を行いました。

園児の皆さんは2曲の合唱を披露してくれましたので、そのお礼として、「フクイサウルス サンタ」からのプレゼントをラプトから園児の皆さんに渡しました。



フクイサウルス サンタお披露目





「恐竜、待て!!」写真大募集!

「New Comer Collections」の一環として、来場者参加型イベント「恐竜、待て!!」の写真を募集して、多くの方から応募をいただきました。



募集バナー

ダイノ新年会を開催

新年をお祝いする恒例の「ダイノ新年会」を1月3日(日)に開催しました。

数々の賞品を用意した新春恐竜運だめし抽選会のほか、新春恐竜もちつき大会、祝い餅のふるまい、恐竜獅子舞(協力:かつやま恐竜の森活性化連絡協議会)を行い、めでたい初春をご来館いただいた大勢の皆様と一緒にお祝いしました。

また、さる年生まれの112人の方には、フクイラプトルの3Dカードをプレゼントしました。さらに、ミュージアムショップの福袋の販売、カフェ&レストランの新春にちなんだデザートを提供を1月11日(月・祝)まで行いました。



新春恐竜運だめし抽選会



年間入館者数が80万人を突破

2015年度の年間入館者80万人目のお客様を1月6日(火)にお迎えしました。80万人突破は、恐竜博物館史上初めてのことで、記念すべき80万人目となったのは、札幌市からお越しの塚本さんご家族と名古屋市からお越しの相原さんご家族です。記念品として、恐竜博物館オリジナルのサウンド付ポップアップカード、チェンジングカード、年間パスポートなどをお贈りしました。

また、感謝イベントを1月9日(木)に開催しました。感謝の気持ちを込めて、「恐竜博物館オリジナルサウンド付チェンジングカード」や「ハローキティ ミニタオル(非売品)」など「80万人」の8にちなんだ8種類の景品を、それぞれ先着「80」名様、全部で640名の皆様にプレゼントしました。



80万人突破記念セレモニー

新種恐竜化石の発表 ~海外恐竜化石共同発掘調査~

恐竜博物館および福井県立大学恐竜学研究所では、2007年からタイおよび中国において、現地の研究機関と共同で発掘調査を実施しており、毎年多くの成果をあげています。

その成果の一つとして、2015年12月、タイで発見されたイグアノドン類の化石が新属新種の化石と認められ、学名をタイの王女の名前にちなみ、「シリントーナ・コラーテンシス」と名付けられました。また、全身骨格(複製)および実物化石を、2016年1月30日(土)から展示しました。



発見部位

「福井ブランドショップ」オープン

本県を代表する食品や伝統的工芸品などの特産品を販売する「福井ブランドショップ」を2016年1月30日(土)にオープンしました。特産品等を一堂に集めて県が運営するショップは、東京の2つのアンテナショップおよび小松空港のアンテナショップに続いて4店舗目となります。

期間

2016年1月30日(土)から5月8日(日)までの土日・祝日。

ただし、春休み期間(3月19日(土)~4月10日(日))およびゴールデンウィーク期間(4月29日(金・祝)~5月8日(日))は毎日開設



福井ブランドショップ

春のPRイベント

「被災地復興への心の応援活動」、「東北では初めてとなる恐竜王国福井のPR活動」という2つの観点から、「恐竜の不滅のパワーを復興に」をコンセプトに、恐竜イベント「ふくいの恐竜たち」がやってくる!~恐竜の不滅のパワーをKoboスタジアムで受け取ろう~を東北楽天ゴールデンイーグルスのホーム球場において開催します。

期間

2016年3月18日(金)~4月5日(火)(19日間)

会場

仙台市宮城野区
楽天Koboスタジアム宮城
(滝本博康、竹内 一)



タイでの恐竜シンポジウム

2015年11月19～20日、タイ王国・バンコクにて、アジア恐竜国際シンポジウム2015が行われ、当館研究員も参加しました。2014年3月に福井県立大学で開催されたものに続く、2回目のアジア恐竜国際シンポジウムです。

19日の口頭発表セッションでは、モンゴル産恐竜化石に関する最新の知見や、鳥類の飛行の起源に関する議論、タイの恐竜研究最新情報など、初日から非常に濃い内容の発表が続きました(写真1)。また、近年進められているマレーシアでの恐竜研究や、アジア各国での恐竜時代の古環境復元の取り組みといった、普段はあまり耳にできない発表も数多くありました。

翌日も口頭発表セッションが続きます。午前最初の発表は、当館特別館長の東洋一による日本の恐竜についての

総括でした。その他にも、ロシア南東部の恐竜の報告など、地域ごとに特色のある発表が続きます。恐竜を利用したタイ観光業の発展という珍しいテーマでも発表が行われました。アジアの恐竜に注目したシンポジウムならではといったところでしょうか。

20日午後はポスター発表が行われました。ポスター発表では、ポスターを前に参加者同士が直接会話できます。発表会場では、新しい知識やアイデアを求める研究者たちが会場を駆け回り、お互いに活発な議論を繰り広げていました(写真2)。

今回のシンポジウムでは延べ12か国(タイ、中国、日本、韓国、モンゴル、マレーシア、ラオス、ロシア、アメリカ合衆国、カナダ、ドイツ、フランス)から127人が参加し、前回と同じよう

に充実した2日間となりました。次は2017年の開催を予定していますが、これまで以上の活発な議論と温かい交流があることを期待しています。

(今井拓哉)



写真1: 口頭発表の様子



写真2: にぎわうポスター発表会場

タイ王国は、アジアでも有数の恐竜産地であることをご存知でしょうか? タイ王国には、三畳紀から白亜紀、いわゆる“恐竜時代”の陸で堆積した地層が分布しています。そこから、数多くの恐竜化石が発掘され、命名されています。しかし、全身の様子がわかる恐竜化石は、竜脚類のプウィアンゴサウルスや獣脚類のシアモティラヌスなど。鳥脚類恐竜では保存状態の良い種類は知られていませんでした。

しかし、恐竜博物館とタイ王国のコラート化石博物館(ナコーン・ラチャシーマ・ラジャバット大学付属珪化木鉱物資源東北調査研究所)との共同研究の結果、東南アジアで最も保存状態の良い鳥脚類(イグアノドン類)を白亜紀前期の地層、コク・クルアト層から発掘し、新種として発表しました。

学名は*Sirindhorna khoratensis*(シリントーナ・コラーテンシス)。属名は、タイ王国のシリントーン王女の名前に、種小名は発掘現場ナコーン・ラチャ

シーマ県の別称“コラート”に由来します。シリントーン王女は、古生物学、特に恐竜に非常に興味を持っておられ、タイで行われるシンポジウムなどにもお越しになられています。また、論文が出版された2015年は60歳になられた記念の年でもありました。

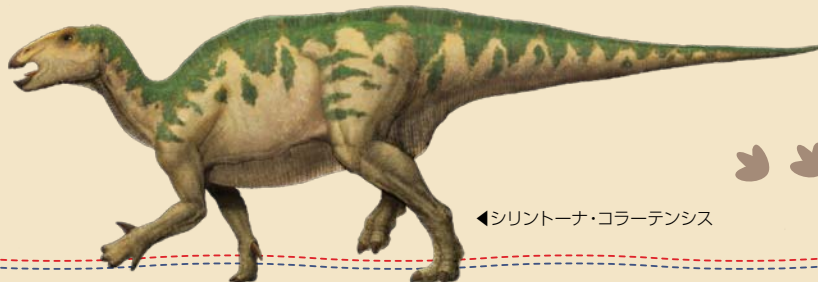
シリントーナは、頭頂部の骨に特徴があり、上顎や下顎、それ以外の部位などから、イグアノドン類の中でも比較的進化的な「ハドロサウルス上科」というグループに属することがわかりました。また、そのハドロサウルス上科の中では、原始的な種類に位置します。

イグアノドン類の進化と繁栄の中心は、元来、ヨーロッパや北米であったものが、白亜紀前期の後半になると、

アジアへと移行していきます。シリントーナは、ちょうどそのころのアジアの南東部に生息していました。このことは、イグアノドン類がアジア全域に広がっていたことを示すとともに、ハドロサウルス類へと続くイグアノドン類の進化がアジアでおこっていたことを示しています。

タイの同じ地層の別の2種類(シアモドンとラチャシマサウルス)の存在や、同時代の地層である福井県の北谷層からも2種類のイグアノドン類が発見されていることを考慮すると、白亜紀前期の後半のアジア地域には、多種多様なイグアノドン類たちが広範囲にわたり生息していた様子がうかがえます。

(柴田正輝)



◀シリントーナ・コラーテンシス

雲南省禄豊県から 続々と見つかる竜脚形類の頭骨化石

研究員 関谷 透

私は2005年9月から2010年7月まで、中国の吉林大学の大学院に留学して、雲南省から産出する恐竜を研究していました。今回は中国で取り組んでいた竜脚形類の頭骨化石について紹介します。

竜脚形類は、首と尻尾が長く、頭が小さい、四足歩行する恐竜のグループです。中国の南西部に位置する、雲南省禄豊県では、1930年代から多くの恐竜化石が発掘されてきました。中でも原始的な竜脚形類が種類・個体数ともに非常に多く、近隣県産のものも含めると、現在までに7属10種が命名されています。



棚田の下にはジュラ紀前期（約1億8000万年前）の紅い地層が分布する。

近年でも発掘が続けられ、体のいろいろな部位の化石が見つかりますが、特に頭骨は恐竜の特徴がよく現れるため、種の同定に重要です。

留学して最初の年には、長さ15cmほどの頭骨の化石を研究することになりました（下図）。上顎骨や頬骨のクボみなどから、ルーフェンゴサウルスの幼体であることがわかりました。成体の化石と比べると、眼窩（眼球が入る穴）が大きく、その上縁では顎骨の占める割合が高いなどの違いがあります。



研究した幼体の頭骨

次に、2007年に発見された大きな頭骨（長さ約30cm）を研究することになりました。頭骨は骨が細いので、つぶれてしまうことが多いのですが、この頭骨は細部まで立体的に保存された、とても良い標本です。当初はルーフェンゴサウルスのものではないかとされていました。私はより派生的な属であるジンシャノサウルスに似ているのではないかという印象をもちました。詳しく観察してみると、やはりジンシャノサウルスに近縁なことが判明しました。上顎骨の内側に穴が開いているなど、独特な特徴があります。

上顎骨の穴



ジンシャノサウルスの一種

「雲南」の中国語読み「ユンナン」に由来するユンナノサウルスは、最初に命名された種であるユンナノサウルス・ファンギと、より大型で頑丈な骨格をもったユンナノサウルス・ロブスタスが知られています。

下の写真は2010年の特別展でも展示したユンナノサウルスの幼体の化石です。頭骨は口元の辺りしか残っていませんが、他にも背骨や手足など、多くの部位が残されていました。歯は円筒形をしており、この属の特徴が現れています。後ろの方の歯（“奥歯”）には鋸歯と呼ばれる細かいギザギザがついていることから、種名はロブスタスであることがわかりました。



ユンナノサウルス・ロブスタス（幼体）

部分的な頭骨と7つの頸椎が発見された別標本も検討しました。これはかなり大きな個体で、首だけで2.5m以上の長さがあります。上顎骨の歯が円筒形なのでユンナノサウルスに属し、下顎の歯に粗い鋸歯があることから、やはりロブスタスに分類されます。ロブスタスは幼体も成体も鼻孔にくぼみがありますが、ファンギにはないなど、同じ属内でも種による違いがあることがわかりました。

鼻孔のくぼみ



禄豊県の恐竜テーマパークで公開中のユンナノサウルス・ロブスタス

2010年には初めて小型の竜脚形類に新種を命名しました。頭骨前縁の傾斜が急なこと、下顎が上下に高いなどの特徴を元に、その恐竜をシシポーサウルス・スニと名付けました。シシポーは化石の産地名で、スニは吉林大学での指導教官である孫革（スン・ゲー）教授への献名です。



シシポーサウルス・スニの頭骨

このように、雲南省禄豊県では竜脚形類の化石がたくさん発見され、中には異なる成長段階の個体も含まれています。今後は、頭骨だけでなく体骨格の情報もあわせて、同種内での個体差や、成長に伴う変化などを研究したいと思います。

特別展

「恐竜の大移動」(仮題)のご紹介

会期
[予定]

2016.7/8 [FRI] → 10/10 [MON]

[博物館休館日を除く]

2016年の特別展は、大陸を移動しながら進化を遂げた恐竜について、特にティラノサウルス類と角竜の起源と進化にスポットを当てます。ジュラ紀後期にアジアで誕生したティラノサウルス類と角竜の祖先は、やがて白亜紀にできたベーリング陸橋によってアジアと北米が陸続きになると、新天地を求めてアジアから移動を始めます。新大陸に渡った彼らの祖先は大型化し、さらに角竜ではトリケラトプスに代表されるような大きな角とフリル（襟飾り）まで獲得します。そして白亜紀の後期になると、再びアジアへと帰ってきたことが近年の研究によって、より詳細に分かってきました。この特別展では、中国や北米の主要な化石標本を中心に時代と大陸ごとに展示し、彼らの進化の旅路をたどります。

まず、彼らが誕生した三畳紀の世界では、すべての大陸がひとつになった超大陸パンゲアが存在していました。

まだ恐竜の数や種類が少なく、本特別展に登場するコエロフィシスのように体のサイズも小さいものばかりでした。ニューメキシコ州で発見されたこの北米最古の恐竜は全長約3mの小型の獣脚類です。同じ地層からは、当時のニューメキシコ最大の捕食者だったと考えられる全長約12mのレドンダサウルスが見つっています。本特別展において日本初公開となるレドンダサウルスは、恐竜ではなくワニによく似た姿をした大型の爬虫類です。

ジュラ紀になると恐竜たちは世界各地に分布を広げて大型化していきます。そんな中、体のサイズはまだ小さいですが、ティラノサウルス類の祖先グアンロンと角竜の祖先インロンが現在の中国新疆ウイグル自治区に出現しました。本特別展ではこれらの実物標本がやってきます。

白亜紀前期の中国産の全長約7mのユウティラヌス全身骨格や羽毛の生え

た小型のティラノサウルス類ディロンのほか、角竜であるプシッタコサウルスの新種やオーロラケラトプスなど初公開となる実物化石も展示します。

白亜紀後期では、北米で最も原始的なティラノサウルスであるピスタヒエヴェルソルと、ペンタケラトプス、トリケラトプス、スティラコサウルス、アケロサウルスなどの北米産角竜も大集合します。中国山東省からも、北米からアジアへ帰ってきたズケンティラヌスやシノケラトプスなどが福井へやってきます。

人気の高いティラノサウルスとトリケラトプスの仲間が、ダイナミックな移動とともに、アジアと北米でどのように進化を遂げたのか分かりやすく解説する特別展となりますので、ぜひお越しください。

(蘭田哲平)



ニューメキシコ自然科学博物館

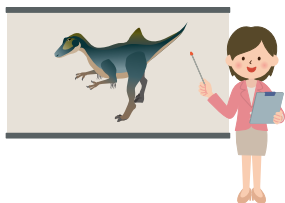


※所定の方法にて、行事名、氏名、年齢、住所、電話番号を、博物館までご連絡ください。開催日の一ヶ月前から受付を開始し、定員に達し次第締め切らせていただきます。ただし、申し込み多数の時は抽選となる場合があります。
 ※当館Webサイトの行事案内ページ (<http://www.dinosaur.pref.fukui.jp/event/>) もご覧ください。

特別展関連行事

博物館セミナー

場所/研修室
 申込/電話、FAX、E-mailにて



■地球と生命の物語④

「新大陸を目指した生き物たち」
 日時/7月24日(日) 13:00～14:30
 内容/新天地を求めてアジアと北米を往来した恐竜。今年の特別展のテーマでもある大陸をまたがる大移動と生物進化の関係について、やさしく解説します。特別展の恐竜に限らず、当時の爬虫類についても紹介します。
 講師/菌田 哲平

■特別展ツアー「特別展の展示解説」

内容/特別展の素晴らしい標本について、詳しく解説します。
 担当/菌田 哲平
 場所/特別展示室
 対象/20名
 申込/電話、FAX、E-mailにて
 ・第1回/7月31日(日) 13:00～14:00

パブリックコース

博物館セミナー

地球と生命の物語

場所/研修室
 申込/電話、FAX、E-mailにて

■① 太古の事件現場を捜査する

日時/4月24日(日) 13:00～14:30
 内容/化石が埋まっている状態を観ることは、太古の事件現場を観ることになります。探偵になったつもりでいっしょに事件の全貌に迫ってみましょう。
 講師/後藤 道治

■② CTをつかった化石の研究

日時/5月15日(日) 13:00～14:30
 内容/X線CTを使った化石内部の観察はごく一般的な研究法となってきました。様々な化石の観察で分かってきたことや問題点を紹介します。
 講師/宮田 和周

■③ 前期白亜紀のアジアの恐竜たち

—日本の恐竜はどこからきたのか?—
 日時/6月12日(日) 13:00～14:30
 内容/福井の恐竜たちはどこからきたのでしょうか?前期白亜紀のアジアの恐竜を概観し、その当時の大陸のようすと環境について考えます。
 講師/柴田 正輝

ジュニアコース

博物館自然教室

場所/実習室
 対象/小学生以上(小学生は保護者も参加) 20名
 申込/往復ハガキ、E-mailにて

■なその恐竜を研究しよう

日時/4月17日(日) 13:00～15:00
 内容/発掘現場で見つかる恐竜の化石は、実は体の一部だけという場合がほとんどです。部分的な標本から、どんな恐竜の、どの部分の骨なのか、一緒に考えてみましょう。博物館に並んだ骨格の中に答えがかかれています。
 担当/関谷 透

■木の化石をとかしてはがしてみよう

日時/5月22日(日) 13:00～15:00
 内容/木の化石を磨いて酸で溶かして、シールを貼り付けて、そのシールをはがすことで木材の内部が観察できるプレパラートが作れます。そのプレパラートから木の種類を調べます。
 担当/寺田 和雄

■石をしらべよう!

日時/6月5日(日) 13:00～15:00
 内容/偏光板(へんこうばん)や顕微鏡(けんびきょう)などを使って、石のつくりや特徴(とくちょう)を一緒にしらべてみましょう。
 担当/佐野 晋一

■恐竜時代から生きていた植物を使って遊んでみよう

日時/7月3日(日) 13:00～15:00
 内容/恐竜が生きていた時代から今まで生き延びている、トクサやイチヨウの葉などを使って色々な遊び道具を作ってみましょう。簡単なヤスリやシャボン液などを作ります。
 担当/湯川 弘一

キッズコース

恐竜ふれあい教室

対象/4歳～小3の親子 15組
 場所/実習室
 申込/往復ハガキ、E-mailにて

■親子で化石の消しゴムをつくろう!

日時/4月10日(日) 13:00～14:00
 内容/消しゴムになる粘土でアンモナイトと三葉虫の消しゴムを作ります。
 担当/島田 妙子

■親子で恐竜パズルをつくろう!

日時/5月29日(日) 13:00～14:00
 内容/恐竜のぬり絵がパズルになります。親子でつくって楽しみましょう。
 担当/島田 妙子

■親子で化石のレプリカをつくろう!

日時/6月19日(日) 13:00～14:00
 内容/石こうを使って、アンモナイトなどの化石の複製をつくりまます。
 担当/千秋 利弘

■親子で恐竜模型をつくろう!

日時/7月18日(月) 13:00～15:30
 内容/恐竜の骨格をもとに、粘土を使って恐竜を復元します。
 講師/恐竜造形家 荒木 一成 先生
 申込/往復ハガキ、E-mailにて。受付は6/18～25、抽選にて参加者に通知

ギャラリートーク開催

当館研究スタッフが、展示標本を前に30分程度のお話をします。開催日時、集合場所等、当館ホームページのイベント案内をチェックして下さい。

